



No.4
2007.12.20

かさま

社協だより

編集・発行

社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会
笠間市美郷3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp
U R L http://www.kasama-syakyo.jp/



岩間公民館グラウンドにて福祉バザーの開催

も く じ

- | | | | |
|-----------------------|-----|----------|-----|
| ① これからの社協 -局長・支所長は語る- | 2～3 | ④ みんなの広場 | 8～9 |
| ② 事業の統一化にむけて | 4～5 | ⑤ お知らせ | 10 |
| ③ 支所だより | 6～7 | | |

らの社協」

所長は語る～

新任地での感想は

去る11月1日、合併前の笠間・友部・岩間社協でご活躍されていた新任の事務局長及び各支所長とインタビュ形式による質疑応答が行われました。旧社協で実施されていたさまざまな活動のよさを活かしながら、合併後の各支所が連携を保ち、新たな社協として発足し、1年余を経過しました。しかし異なった家庭が1か所で生活するためには、さまざまな問題を克服していかなければならないことが、浮彫りにされました。



笠間市
社会福祉協議会
事務局長
石井 善昭

統合した当初は支所間に違いがあったが、職員間にも一つの社協にまとめようとの意欲が芽生えてきている。しかし、180人の職員をまとめ、協力体制を確立するには、3～5年の年月がかかるのではと懸念している。職員の間には、各種の研修などを通して結束をうながしていきたい。格差調整が大変であるが、これからはせいぜいはいっしょに頑張っていくつもりである。



友部支所長
福田 秀樹

民間から転入したので、社協の事業が多いのには驚いた。このようなことは、分らない人が多くいると思うので、広報活動等を通して周知させていくことが大切だと思ふ。友部支所は、これまでの実績があり、お膳立てができていますので、今まで行っている活動を



笠間支所長
小曾 栄子

笠間支所は、活動範囲が広く地域も分らず大変ですが、頑張っていきたい。笠間にも「バキスタン支援事業」「やさしい焼物づくり」など、よい事業もたくさんあるので、福祉の芽を更に伸ばしていきたい。



岩間支所長
小池 和夫

群馬に生まれ育ち、茨城にきたが、地域でのスポーツを通して、仲間づくりをしながら育てられたと思う。三支所の連携によって人間づくり・ふれあいづくり・地域づくりを進めていきたい。そして、誰にとって必要なのかを良く吟味し、守るものは何なのかを見極めながら事業を展開していきたい。

特別委員会とは

合併後、地域ごとの実施事業について統一化を図る目的で、「特別委員会」が設置され、組織体制及び事務事業の全般にわたって検討し、改善の提案をすることを目的とします。

合併後、事業の統一化について特別委員会で検討された内容の進捗状況と情報公開についての考え方を話し下さい。

石井事務局長

特別委員会は、今年4月に設置され会長から諮問を受け、住民の代表である理事・評議員・監事にて検討を重ね、10月に検討を終了し、11月下旬会長に答申いたしました。(4～5ページ参照)

答申の中で、実施可能なものについては、平成20年度より事業に反映されればと考えています。また、検討内容の公開につきましても、社協の広報紙を活用するとか、行政区の総会・支部代議員会等の集会にこちらから出かけて、お話しをしていきたいと思っています。

岩間・友部・笠間の社協が合併して1年が経過しましたが、どの様な効果と弊害がありますか

笠間支所長

人口の密集地と遠隔地での福祉のあり方・及び広い面積と移動する距離が長く(別表参照)対応するのに時間がかかるなど課題があります。

このようなかで、ミニデイサービス・地域ボランティアによる弁当の宅配サービスなど支所特有の事業を展開しております。また、陶磁器のユニバーサルデザイン活動や高齢者に優しい「まちづくり」などのグループもありますが、地区などのサービスを同じ水準にするには、時間がかかりそうです。

友部支所長

ボランティアやヘルパーが相互に交流していますので、お互いにノウハウ(技術的知識・こづ)が身につくようになってきており、新たな視点で福祉を見直すことができると考えています。

項目	概要
面積	約20km ²
東西の距離	約20km
南北の距離	約25km
総人口	約1万1千人(人口約21%)



説明する事務局長等

特集

「これか



～局長・支

岩間支所長
 井当の手作り・宅配サービス、祭事の福豆配りなど支所特有の事業を展開しています。しかし、年々高齢化が進んでいく今日、社協だけでは十分なサービスができにくくなっていることが想定され、市民（公議員）



熱心に説明を聞いている広報委員たち

の協力が不可欠になります。



ボランティアの育成と募集について

岩間支所長

岩間地区には22サークルが活動しております。男の料理教室を修了した方たちで結成された食事作りサークルもあります。また3歳ヘルパー養成講座も行われ、そのなかからボランティアを希望された方もおります。ボランティアサークルがボランティア育成講座の受皿になってくれればと思っております。

友部支所長

後継者づくりの入口は講座の開設にあると思います。そして講座への参加をふやす努力が必要だと思います。

普間支所長

講座は自転車でも気軽にに行けるような場所であればならぬと思います。

ボランティアサークルと地域とのふれあい及び活動について

石井事務局長

配食サービス等をきっかけに、形は進んでいるがボランティア

の持てる力を生かして、小さなことからでも良いから継続的にやっていくことが望まれます。

住民の方はボランティア活動の実態を理解していないことが多いし、また身の廻りに必要なこととわかっていない人が多い。皆さんにそれをどうやって呼びかけていくか、時間と心とお金をみにつめて実状を知ること、それに沿っていくことが大切です。

ボラ講座については、地域に的を得た講座を開かなければならないと思います。

ボランティアセンターについては、行政の検討委員会でやっているのに、今あるものを利用していけばよいのでしょうか。

新たに発足した近岡市社協は、住民一人一人が社協活動の理解を深め、手を携え合って築き上げていくものだと思います。

一本の大きな樹木は、長い年月をかけて四方八方に根を張り、太い枝を伸ばしなから育ちます。私たちは、その根となって社協と暮らす樹木を育てましょう。

(海老澤・村尾・入江・山田・強口・久保田・金井・岡・平本・鶴田・小野・菅塚・吹野)

事業の統一化にむけて

— 答申書提出される —

今年3月に事業検討特別委員会(総務・地域第1・第2・介護)を設置し、4月に社協会長から事務事業等15項目について諮問を受け、住民の代表である理事・評議員・監事により審議されました。

審議に当り「1. 本会の目的としている事業であるか、2. 公共性、公平性及び平等性が確保されているか、3. 市民のニーズを的確にとらえているか」等に留意し25回にわたる審議を終了し、11月の下旬に社協会長に答申されました。

総務特別委員会

●福祉バスの運行に関すること

・バスの車両任意保険加入のほかに傷害保険の加入は、利用者側が必要に応じ加入することとし、ボランティア保険に加入しているものは、ボランティア保険で対応できる。

・市のバス運行規程を参考にし、福祉バス運行要綱を定め、本会の事業及び本会の事業に関わ

る団体の事業に対して運行することとする。

・運行回数の増加が予想されるので臨時職員を採用し、各事業に対応する。

・平成19年第1回理事会、評議員会の決定により実施されている。

●会員会費に関すること

・一般会費の1戸あたりの額は、3地区ともさほど大きな差がないので、支部地区の19年度の集まり状況をみながら、支部運営委員会や区長会と調整をし、3年以内に一般会費を100円以上に統一する。

・社協そのものが、市民の理解と認識を得られるよう努める必要がある。

・審議未了のため、総務部会に審議を引き継ぐ。

●生活福祉資金、小口貸付事業に関すること

・生活福祉資金は、国及び県の事業なので市社協としては継続していく。

・小口貸付の貸付金が少なくな

った場合は、現物支給の方法もある。

・滞納者に返済を極力よく促す。

●指定管理に関すること

・「いこいの家(はなさか)」は福祉施設、または観光施設とするかの判断もあるが、現段階では福祉施設としてとらえ、今回も継続して指定を申請する。

・福祉センター「いわま」は、修理を必要としている箇所があり老朽化が進んでいる。将来的には存続について市と協議が必要であるが、現段階では指定を継続して申請する方向とする。

・福祉会館は活動の拠点であり、また、心身障害者福祉センター及び福祉センターは社協の本務でもあるので継続して申請する。

●組織体制に関すること

・将来的に本所と支部支所を一本化するにしても現時点では、支所の果たす役割が大きいことから、すぐに一本化するのとは好ましくない。状況に応じた組織の見直しを図ることが必要である。

・介護事業に関しても会計の分離等の検討を進めることが望ましい。

●共同基金配分に関すること

・合併している団体については、助成金の額を統一する。

・学校関係の助成は教育委員会と協議するとともに、額も多くはないので、学校規模に係関係なく統一して助成する。

・助成の使途に關し計画書・報告書の提出を求める。

・助成金額を事務局案で採り、共同基金配分委員会に審議を引き継ぐ。

地域福祉第1特別委員会

●給食配食サービスに関すること

・行政は給食サービス事業とボランティア活動の意義や目的を理解し、ボランティアが安心して給食活動ができるよう継続した事業費が求められる。

・行政と社協間の事業調整には、ボランティアの意見を取り入れるよう配慮すべきである。

・今後、配食サービス対象者は増加することを考慮すべきであろう。

・行政は給食を媒体として給食サービス事業の目的を安否確認、ふれあいとしているが、事業評

価はされているのだろうか。

・対象者一人当たりの年間委託費を定め、各支所へ配分し事業内容を一任する方策も一考かと思われる。

●ボランティア積立金及び養成講座に関すること

・ボランティア積立金については、ボランティアの自主性を尊重し、3支所のボランティアで十分検討し有効に活用すること、各支所にボランティアセンターを設置し、ボランティア担当職員・ボランティア連絡協議会等の役割を明確にし、ボランティア研修や啓発啓蒙に努力すること。

・ボランティア講座や福祉講座の実施については、今後也十分検討し継続実施のこと。

・講座は、より多くの方の参加が図れるよう社協独自の啓発方法を検討し進めること。

・ボランティア活動に対する市補助金については、補助内容を明確にすること。

●在宅サービス事業に関すること

・支所によって事業システムに違いはあるが、協会の活動意欲に支えられ取り組まれている事業である。今後は経過を見ながら徐々にシステムの統一を

図ることが望まれる。

- ・笠間・支部は委託金で、岩間・地域福祉財源で事業を実施している現状を考えると、3支所統一した委託事業にすべきである。また、利用料100円分についても、利用者への利用料補助金として行政の支援が得られるよう配慮されたい。

- ・協力会員は、利用者へのサービス提供者として研修を常に重ね、ボランティア精神を基本に会員同士の連携・心構えの統一、親睦などが大切であり各支所であるいは台同での研修の実施が望まれる。

- ・県の支援によりスタートした社協委託事業を、行政は現在どのような評価しどう充実させるようとしているのか不明確である。

地域福祉第2特別委員会

- 支部、地区社協協議等について**
 - ・支部社協の基盤づくりの方法は、笠間・岩間それぞれ地域性や既存の地域組織、関係団体との協力関係を築きながら進める。
 - ・支部づくりの考え方は、組織編成のみを優先させず、実態可能な事業に取り組むことから始める。
- ・支部社協協活動は、より身近な

地域での活動であり、地域福祉の向上のために欠くことのできない事業である。

- ・近所づきあいの希薄化が叫ばれている昨今、社協の果たすべき役割が明確化されている。
- ・人材の確保・育成は、最も重要であり、住民の方々への理解・協力を得るため研修会等を実施する。

支所	事業名	内容
笠間	高齢者への訪問サービス	高齢者への訪問サービスを行う。地域福祉財源から実施する。
岩間	高齢者への訪問サービス	高齢者への訪問サービスを行う。地域福祉財源から実施する。
湯浅	高齢者への訪問サービス	高齢者への訪問サービスを行う。地域福祉財源から実施する。

いきいきふれあい交流事業について

いきいきふれあい交流事業は、閉じこもりや要介護への移行を防ぐ有意義な事業である。また、安否確認の点でも大きな役割を果たしている。高齢者の増加により必要性は高くなるが、活動拠点やボランティア等の確保が課題となる。

また、本事業はひとり暮らしの方や昼間独居となる方の孤食という状況を解決する効果もあり、高齢者の仲間づくりの促進につながり、孤独感の解消と精神面での効果が期待できる。

- ・各支所で実施している事業は、活動拠点の設備やスペース等の制約により違いがあるが、当面現行どおり実施する。
- ・市委託事業であり、社協が培ってきたノウハウを活かし、利用者の増加にも対応できる体制づくりと財源の確保に努められたい。

親子通園事業について

親子通園事業は、心身に発達遅れのある子どもと親が一緒に通園し、さまざまな体験を通じて発育を支援することがあるが、子どもだけでなく親にも問題があることが判明した。臨床心理士の有資格者を配置し、相談体制も整え関係機関との連携を図っている。

以上のことより、実施状況の違いはあるが当面は現行どおりとする。

おもちゃ図書館に関すること

おもちゃ図書館は、障害や発達遅れがある子どもにとってはおもちゃや他の子どもと遊びながら機能の遅れを取り戻す良い機会だと思われる。また、同じような境遇の子どもを持つ保護者間の育児に関するさまざまな悩みを共有化や解決の場となる。健全者との交流については、

障害者への偏見や差別をなくすという面があるが、健全者と障害者がグループ化してしまう可能性もあるので、当面は現行どおりとする。

ただし、利用者が年を過ごすことに減少している一方で、親子通園事業とおもちゃ図書館の同時開催を検討されたい。

介護事業特別委員会

- 営業日に関すること**
 - ・資格・スタッフ・利用者など解決する事が多いので、下記の項目を「努力目標」とする。

① 施設の日常業務		② 在宅介護支援センター	
開館時間	8:30~17:00	開館時間	9:00~17:00
休館日	土日	休館日	土日
受付時間	9:00~16:00	受付時間	9:00~16:00
休館日	土日	休館日	土日

- 訪問入浴と事業所の統合に関すること**
 - ・利用者の曜日によるバラッキ及びキャンセル等で仕事の標準化が難しい事を考え合わせ、職員との交流やエリアを超えて利用者分担任するなどの方法で標準化を図り、支部と岩間の2事業所は今まで通り運営する。
 - ・笠間地区での訪問入浴事業は、投資経費及び利用者の数と考え合わせ、現状を静観する。

介護特別委員会	地域福祉第2特別委員会	地域福祉第1特別委員会	経済特別委員会
委員長 高橋 秀雄	委員長 藤田 孝子	委員長 松橋 優子	委員長 佐藤 義典
副委員長 森田 浩平	副委員長 海老原 孝子	副委員長 伊藤 友希	副委員長 北條 敦子
委員 19名	委員 11名	委員 15名	委員 15名

だより

心強く楽しい

合併後1年余の歩みの中で、各支所の活動が息えてきました。異なる地域特性に適性化した活動をする各支所や、外出する機会の少ない高齢者に、楽しみと心のリフレッシュの場として茶話会を実施した友部支所。一方地域住民のかかわり方も多様になってきたので、地区懇談会を開催し、事業への理解を深めた笠間支所を紹介します。

笠間支所

世代間交流を目指した活動 地区社協スタート

地区社協とは、各地域にお住まいの皆様一人ひとりが、その福祉課題を地域全体の課題としてとらえ、その解決に向けた取り組みを地域で行う活動基盤が地区社協です。

その中で、笠間地域において積極的に活動を展開し、とても個性的な「まなだけ会」と「こゆう会」を紹介します。

これらの団体は「はんどちゃんネットワーク運動助成事業」制度を活用した団体です。「こゆう会」は市街地（笠間市荒町地区）を拠点に活動し、「まな



だけ会」は山村部（笠間市上加賀田地区）という異なる地域で活動する団体ですが、そのテーマは「世代間交流を目指した寄り合いづくり」という同じ目的として活動しています。

この団体の特筆すべき点は、同じ目的を掲げながら市街地と山村部という異なる地域特性に適性化した活動をし、その地域の住民が自ら課題を見つけ、その解決のための自発的な行動が出発点となり、社協笠間支所が

バックアップしたという成り立ちに見ることが出来ます。

地域の方々の自発的な活動が地区社協の機能を果たすケースは、とても貴重なことであり、活動に興味のある方は、お気軽に社協にご相談ください。

地域住民が自ら課題を提起し解決することが重要であるとい

うことを、これをお読みの皆様に伝えたく紹介致しました。

なお、地区社協は社協委員会費の50%が地区へ還元され、福祉活動事業の一部として使われます。

（入江）

友部支所

北川根支部 楽しい茶話会

市立北川根小学校区（27行政区）で、地域福祉のさまざまな活動を展開している社協北川根支部の楽しい「茶和会」について紹介します。

地区別茶和会……平成7年に「お茶のみ会」として発足したコミュニケーション作りの場が継承され、各地区ごとに開催されるようになりました。農閑期等を利用して、各地区の集落センター・集会所等に高齢者が集まり（不定期）、健康チェック・寸劇等による交通安全指導・講話やゲーム等（内容は地区によって異なる）を楽しみ、支部女性部員が心を込めて準備した食卓を囲んで、高齢者相互のコミ



ソフト輪投げを楽しむ

ュニケーションを醸成しています。

こうした茶和会で、「××地区の○○ちゃんは、暫らく会ってないけど、元気だろうか？」と、幼馴染みの安否を気遣う声・「友達と外出する機会が乏しくなった」等の声から、地区別茶和会



支所

仲間がいれば

岩間支所

地区別懇談会

合併して笠間市となり1年が過ぎ、岩間地区住民の皆さまに社会福祉協議会の事業をより深く理解して頂くことを目的に、10月21日、11月21日の間に、18か所の公民館で地区懇談会を開催しました。

社協職員により、社協の事業内容や会員会費、共同募金の統一、支部社協設立についての説明があり、住民の皆さまから次のような質問や要望が出されました。

Q「社協は市役所の機関ではないのか」

A「地域の福祉活動を推進する民間の組織です」

Q「いつ頃から歳末助け合いの募金額が変わりますか」

A「今年度より目標額として、300円から500円にさせて頂きたいと思えます。増額分は、地域の福祉活動のために役立てたいと思えます」

Q「心配ごと相談は、秘密厳守しているのか」

A「必ず厳守しています」



皆さまから寄せられた貴重な意見を今後の社協活動に活かし、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し、社協が皆さまのより身近な存在となるよう努力いたします。

また、地区での集まりなどの際には、事業説明などに伺いますので、社協まで連絡をお願いいたします。

これからも皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(強口)



元気に体操も…

では補い得ない部分をカバーする活動として、平成14年に福祉バスを利用した外出型茶和会を合同茶和会として実施しました。

合同茶和会……第1回・第2回は、試行的にさくら市の「ハートピア喜連川」・古河市の「トモエ乳業」見学等を実施しました。しかし時間的にハードだったことから、第3回目以降は近隣の国民宿舎(つくばね・水

郷・鶴の岬・いこいの村湖沼等)を利用して、行程に要する時間を短縮し、買い物を楽しんだり、宿舎での歓談に十分な時間を費やすことが出来るようになりました。

参加人員の多い時は、1グループでバス2台を要した時もありましたが、年平均3グループで130人から150人(介助の女性部員・役員を含む)で推移しております。

96歳の父親に付き添って参加された方は、「つきそいも快く認めてくださいます、ありがとうございます。父も大勢の方に声をかけられ、なつかしい人たちに出会うことができたことを、大変よろこんでおりました」と感想を述べていました。

(皆塚)

人と人がおたがいに信頼し合う//おたがいきま//の関係がなくなつた地域社会では、人はけつして幸せに暮らすことはできないでしょう。

ボランティアの裾野を広げ、助け合いの精神を地域にどう生かすか、みなさんで考えてみようではありませんか。

日々の暮らしを大切に

小原 吹野 聡



冷蔵庫のとびらに「食事バランスガイド」が張ってある。「二日に何をどれだけ食べたらいいか」の目安を横目で見ながら、手にしたサツマイモを眺め、これをどう料理するかと思いを巡らしていた。

窓の外に目をやるとジョギングに汗を流している人の姿が見え、*ガッガッ*と何かにあせりを感じる自分に気付く。飽食の時代といわれ、バイキング、食べ放題などの活字がおどろき、食のはんらん、食生活の乱れなどに對する厳しい実状が取りざたされている今日。

自分の生活を振り返ると車社会に慣れ、忙しい毎日を送り、加えて不規則な食事時間等、ストレス社会に身を置くことの多い日々で、運動不足は言うに及ばず。

「スタポリックシンドローム」なる言葉を耳にする機会が増えてきた。別名「内臓脂肪症候群」とも呼ばれ内臓脂肪の蓄積によ

って、血糖・脂質・血圧に異常をきたすことで、最終的には心筋梗塞や脳梗塞などの血管病が起ころやすくなる状態をさす。内臓脂肪を減らすポイントとは、生活習慣を見直すことがいちばんと、自分に言いさかせる。

周りをみると、人間ドックや住民健診の受診、そして自ら情報を求めて健康を維持しているというとする、「セルフメディケーション」の考え方も浸透しつつある。

人は誰も「ピンピンコロリ」を望み、そのために知恵を絞ることが出来る。日常生活は便利になったが欲求は限りなく、それがエスカレートすればするほど悪循環をひきおこす。しかし人間は工夫もし、英知もある。以前耳にした言葉に『ほどほどに不自由さを残すのが人間工学』を思い出す。深い意味あいを感じると共に、日々の生活を見直し、いかに充実させるかという宿題に取り組んでいかなければと思つこの頃である。

第23回「小さな親切」はがきキャンペーンで 大月 裕美さん(稲田在住)「優秀賞」を受賞

この作品は、ある福祉施設にボランティアで訪問した際に、なにげない親切を受け、これをはがきで応募し、社団法人「小さな親切」運動本部より優秀賞を受賞されました。誠におめでとうございます。

小さな親切がなにげなく行われそれが地域社会全体に広がっていくことを心から願っています。



真夏の空から大粒の雨が突然/バラバラと大きな音をたてて落ちてきました。
思わず窓の外に目をやる園生たち…。既読ボランティアで市内のある施設に出かけていた2年前の夏の日の午後のことでした。
終了後、食堂で園生たちとおやつを頂いている間も雨は降り続き、車の中に傘を置いてきたことを悔やみながら「走ればいいか…」と皆に別れを告げて玄関を出ました。
すると雨の中、玄関先に傘をさした0君が一人でポツンと立っているのです。
「どうしたの？」という問いかけの趣意をこめて首をかしげると私は、彼はニコッと笑ってその傘をさしかけてくれました。そして相合傘で車まで送ってくれたのでした。
我が子と同年代の0君とは、彼が小学生の頃からの10数年のおつきあい。
彼には、私の声は聞こえていません。
彼の言葉も聞くことはできません。
でも、会った時にはいつも、身ぶり手ぶりで、豊かな表情で私を和ませてくれます。
「ありがとうね！」お礼を言って車に乗りふとみると、彼は私の車に向かっていつまでも手を振ってくれました。
親元を離れて園生活を送る彼の、親孝行のような優しさがつ〜んと心に染みて、ハンドルを握った目の前の景色がほんやりにじみました……。

健康人



地域の伝統文化伝承に 生きがいを求めて

下安部
高瀬 勉さん

今回は、市の無形文化財の候補にあがっている灯籠念仏の伝承に中核として活動されている高瀬勉さん（87歳）のご投稿を紹介致します。

私たちの地区には、平安の時代より灯籠念仏なる伝統行事が行われていました。太鼓・鼓・笛などをもちい、多くの念仏衆が、高灯籠の下にいだない、菩提寺である妙行院を初め、当地方の多年にわたる念仏道場として栄えた千日堂などで、新佛の霊を二年間にわたり慰さめ供養を祈る、当時としては極めて豪華な行事でした。

戦後、行事の主役である青年の多くを失い中断を止むなきにいたりましたが、歴代館長初め多くの方々の努力により、復活の兆しに恵まれ、保存の道を歩き始めました。特に笛の妙手が三名ほど確保されましたので、これから、婦人・少年の手が確



保できれば将来が大きく期待できると思われます。

灯籠念仏の練習を兼ねた実働前の二十日間ほどの合同練習は、長い間地区に果された古老の功勞を偲びながら、念仏の内容や節の高低などを学び、今昔の苦勞を重ね合わせることにより、いつしか念仏の心にもふれてゆき

みんな

ます。これが本当の念仏の「心」と申すべきものでしょうか。

今の私の一番の楽しみは、さそわれて数年前よりカラオケ塾に入り、週二回のカラオケの日を心から楽しんでいることです。おかげさまで毎日を充実させてすごしております。

これからも地域文化の伝承にご活躍されますことを祈念いたします。



熟年パソコンクラブ

下郷 外岡 勇



最近「パソコン教室」が、世で開かれて

いる。我等が配食配送グループ「四葉のクロバー」でも、パソコンをやらないかと言う話を持ち上がり、たちまち六人ほどの賛同者が集まった。それと言うのもグループの中にパソコンの先生が居たからである。

名称も「熟年パソコンクラブ」と

決まり、岩間公民館で毎週土曜日の十三時三十分から開講の運びとなった。名称にもあるように平均年齢はとうに七〇を越えている。ワープロ経験者、パソコンを習った人、また初心者の面々である。まずは文字入力からだ。それらの変換・移動・貼り付け・挿入・削除・図の構成等である。我等にとつてすべてが難関である。先生の言うことに耳を傾け、目を皿にしてキーを打つのだがディスプレイには教えられたような文字や図が一度や二度では出てこない。しかも、目はチカチカ、肩まで

凝ってくる始末である。それだけに出来たときの喜びは万歳をしようという気持ちである。

ワードが一段落すると次はインターネットを勉強する予定である。齢七〇を過ぎて新しい世界が開けることはこの上もない喜びであるが、これもまた一筋縄ではいくまい、先生の手をあまりわずらわせないように、予習、復習をしっかりやって臨みたいものである。



善意の寄付も「ありがとう!!」(善意銀行預託)

平成19年6月1日～平成19年10月31日まで(期不同・数省略)

物 品

菅谷 泰子	そうせん
入江ゆかり	使用済切手
(株) 笠間ソフトメン機本館	ソフトメン250食、焼きそば970食
塚本豊業(株)	使用済切手
河原はるみ	使用済切手
笠間幼稚園PTA	使用済切手234枚、書世家2個、使用済テレホンカード19枚
笠間公園開	使用済切手
有限会社清水工務店	使用済切手
飯村 七重	夏祭り、毛布、タオルケット、バスタオル等
茨城県ガールスカウト第8団	アルミブルタブ 1箱
山口 繁江	紙オムツ、車椅子バット、リハビリパンツ
井川 繁子	ブルタブ、高級チケット(100枚)
赤羽会笠間支部	使用済切手 1,212枚
カトレヤ	使用済切手
茨城県建設公務員連盟笠間支部	タオル250本
谷中 清也	使用済切手
赤山スポーツ	使用済切手
伊藤石村工業	使用済切手
藤村ふみ江	そうせん
野田 文雄	使用済切手
(株) 針田製材所	使用済切手
昭和17年笠間南高等学校卒業 親会一貫	紙オムツ
茨城県立友部高等学校	ブルタブ17巻、使用済テレホンカード18枚、使用済切手36枚
大沢下長生会	紙オムツ93枚、タオル37枚
ボランティアサークルありんこ	使用済切手、ハガキ20,000円分、ハガキ80枚、切手163枚
きもの イナモト	使用済切手3,050枚
平塚 幸雄	車椅子1台
茨城県立友部高等学校卒業 親会一貫	タオル192本
田村 征夫	ハガキ72枚
竹内 勝男	切手、使用済テレホンカード
廣澤 幸一郎	使用済ハガキ93枚、未使用ハガキ40枚
笠間市立病院	使用済切手
菅谷 正子	使用済切手多数
藤原 真吉	紙オムツ
石田 好一	紙多数
田口 サカエ	切手大紙
インターバック株式会社	弁当当座 800個、みそ汁 1500個
富田 昇	紙手多数
横田 裕	紙オムツ多数
茨城県建設公務員連盟笠間支部	タオル100本
藤岡 正夫	米30kg
工藤 正巳	使用済切手200枚、使用済テレホンカード38枚など
佐藤 利江	使用済切手
鈴木 好吉	使用済切手多数
下安原防火クラブ	ブルタブ多数

金 額

笠間カラオケ倶楽部	14,800円
笠間緑の会	32,796円
笠間南門前通り おかみさん会	4,040円
水戸地方ハイヤー連盟	30,000円
ア6-1区 白木組	6,062円
パシフィックスポーツプラザ	1,775円
笠間市日中友好協会	10,000円
グレートボール連合会	17,951円
日本誌協笠間支部	19,786円
笠間市体育協会 スポーツダンス部	20,000円
フリーマーケット はちみつ倶楽部	3,000円
昭和17年笠間南高等学校卒業 親会一貫	79,862円
友部体育協会	3,904円
大沢下長生会	6,473円
高野 マチ子	20,000円
柏井野球クラブ	3,000円
笠間市友部ドッジボールスポーツ少年団後援会	6,439円
笠間市友部ドッジボールスポーツ少年団	4,968円
野口 貴	200,000円
チャリティーマーケット2007年とくまの国連委員会	33,422円
金木 興治	2,000円
北川根支部 夏祭り売上金の一部	1,504円
結城信用金庫	100,000円
笠間市チャリティーゴルフ大会実行委員会	171,474円
藤井 孝	4,765円
真田寺そば会	19,412円
バザー夢工場	150,000円
源辺商店	7,910円
(株) 台気会茨城支店	40,026円
赤津 ひで(故人)	20,000円
袖山 久重	10,000円
匿名 12件	50,425円

ご寄贈に多謝

水戸ヤクルト販売(株)様より笠間市社会福祉協議会へ車いす8台が寄贈されました。この車いすは日常生活に支障がある高齢者、障害者等に貸出しをいたしますのでご利用ください。



あごがき

3市町の社会福祉協議会が合併して1年余り経ちました。今回は、局長および各支所長にご出席をいただき、合併後の感想や、今後の抱負などについて話し合われたことを特集しました。

望ましい笠間市社協になるまでには時間を要しますが、その時期の早いことを願ってやみません。(吹野)